SOCIAL MEDICAL CORPORATION
SHOUWAKAI

OTA PRESS

For Partners

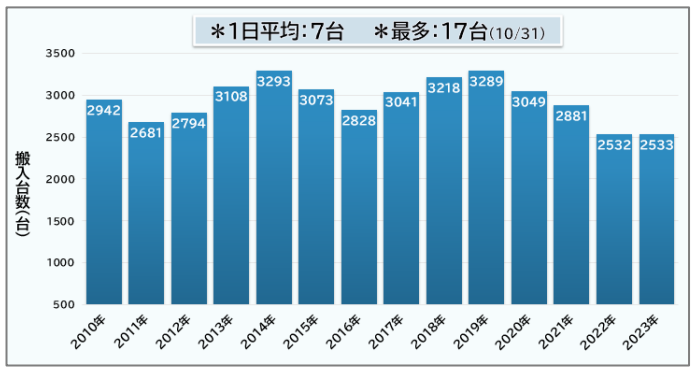
Sep. 2024

救急科 医長
高畠 周 医師

◆ 当院の救急医療の現状

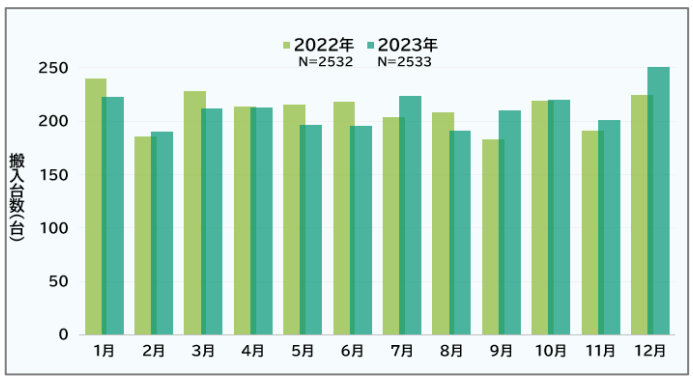
当院は、人口約 50 万人を擁する福山・府中二次医療圏における二次救急医療機関として、救急搬送を受け入れています。

■救急搬入患者数の推移



2023 年は、**2,533 台**の救急搬入があり、救急搬入の 1 日平均は 7 台で、最多は 10 月 31 日の 17 台でした。

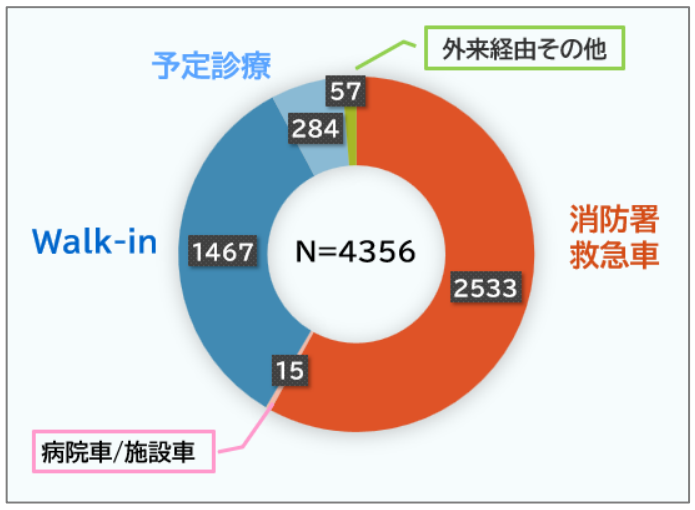
■救急月別搬入台数



前年と比較して搬入台数は大差ありませんでした。院内クラスターが発生し受入困難であった、前年 7、11、12 月と比べると受入能力が向上しています。

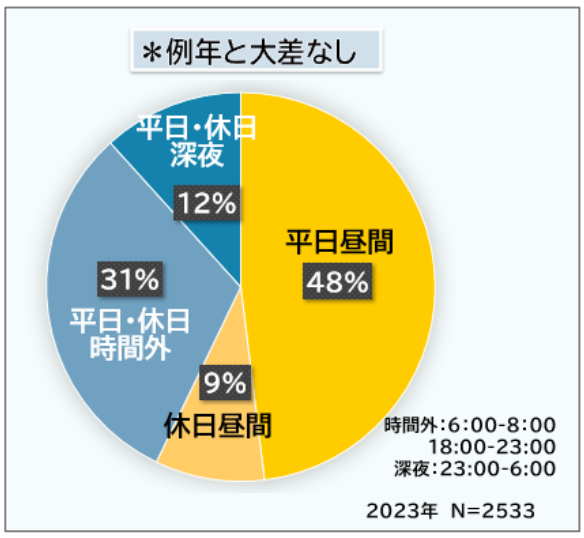
■救急外来患者総数

救急外来の受診患者数は全体で**4,356 人**。うち、「救急車で搬入」2,533 人、「walk-in」1,467 人でした。



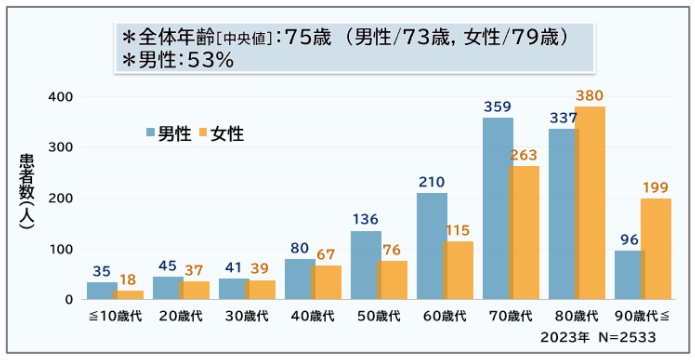
全体で、2021 年より 1,112 人減少。2022 年より 179 人減少でした。

■消防署救急車搬入時間と受け入れ



2022 年度の救急車搬入時間の割合は、平日昼間 45%、平日・休日時間外 30%、平日・休日深夜 14%、休日昼間 11%でした。

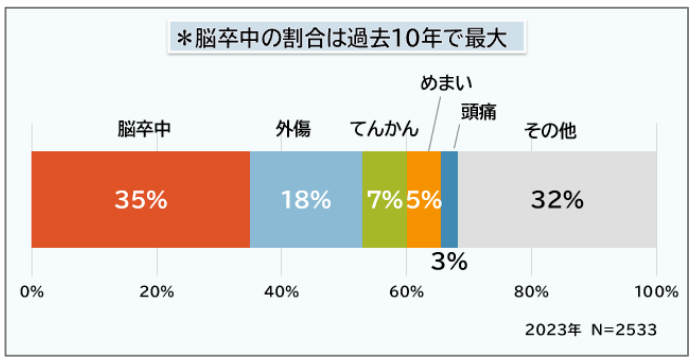
■救急車搬入患者　年齢・性別分布



救急搬入された患者は、70 歳代から 80 歳代に集中しています。

救急搬送される高齢者の割合は年々増加しており、超高齢社会における地域包括ケアシステムの推進により、今後さらに増加が見込まれています。

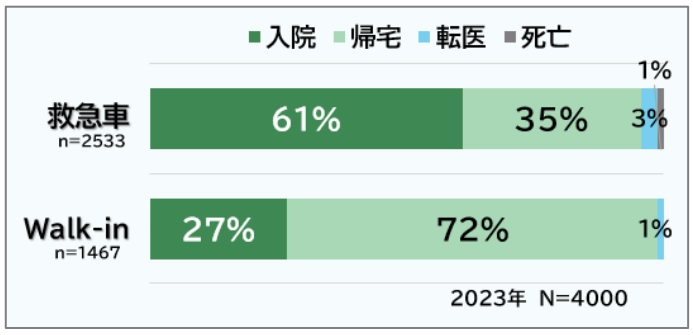
■救急搬入患者の主病名



当院は、脳卒中をはじめとした脳神経疾患を主な診療対象としていますが、実際に救急搬送された患者の主たる病名については、「脳卒中」35%、「外傷」18%に次いで「てんかん」7%、「めまい」5%、「頭痛」3%となっています。

「脳卒中」の割合は過去 10 年で最大となりました。

■救急車搬入患者の転帰



救急搬入された患者のうち、入院になった割合は前年比 3%増加でした。

今後も、各関係機関との連携を深め、地域における救急医療に貢献してまいります。引き続き、よろしくお願いいたします。

チーム活動の紹介：OSST ラウンド

当院へ入院されている患者さんは、脳卒中をはじめ、神経難病、肺炎など様々な疾患の方がおられます。その中には、摂食・嚥下障害を呈する患者さんも多く、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）や転帰へ大きな影響を与えます。摂食・嚥下障害の病態は、「食べ物を噛むことが難しい」、「飲み込むのに時間がかかる」など多様であり、アプローチの方法も個別性が求められます。

当院では、2020 年より、口腔ケアや摂食嚥下障害に対し多職種で関わるため、「口腔ケア・摂食嚥下チーム Oral care and Swallowing Support Team：OSST」を設置し、多職種で評価・介入を行っています。OSST は、脳神経内科医師、歯科医師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士、言語聴覚士で構成されており、週 1 回の OSST ラウンド、月 1 回の運営ミーティングを実施しています。

OSST ラウンドでは、患者さんの実際の食事場面に伺い、「食事の姿勢は良いか」、「食事の形態は適切か」、「義歯は適合しているか」、「むせはないか」、「摂取量は足りているか」など、多角的な視点から観察・評価します。さらにそれぞれの職種による事前情報も合わせて、今後のアプローチ方法をチームで検討していきます。

食事場面を観察することは、嚥下障害のスクリーニング検査や嚥下造影検査（VF）、嚥下内視鏡検査(VE)だけでは得られない、たくさんの情報を得ることができるため、改善に向けたアプローチ方法を検討していく上では大変重要であると思われます。

OSST ラウンドを実施することにより、食事量の増加、誤嚥性肺炎の予防などの良い効果が期待できます。「リスクがあるから食べないようにする」ではなく、「どのようにすればリスクを最小限にして食べられるか」という視点でアプローチを検討していく必要があると思います。

今後も同じ目標に向かい多職種で問題点を共有し、患者さんが安心して、安全で楽しい食事ができるようチームでの活動を続けていきたいと考えています。

■ TOPICS

2024 年 7 月 13 日、院内で ICLS 講習会を開催しました

ICLS（Immediate Cardiac Life Support）は、医療従事者のための蘇生トレーニングコースで、特に「突然の心停止に対する最初の 10 分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標としています。

講習会のプロバイダーは庵谷紘美医師、インストラクターは院内から寺澤由佳医師、山平潤看護師、小畠直樹看護師、房野真沙美看護師、田中優臣看護師らが務め、院外からは福山消防局の野村救命士と西山救命士に参加いただきました。今回の受講生は看護主任６名で、今までの臨床経験と前準備を十分に行った上での受講だったため、落ち着いてデモンストレーションを行うことができ、実践的スキルや緊急時の対応力の向上につながりました。 次回の開催は秋を予定しており、さらなるスキルアップを目指しています。

2024 年 8 月 2 日、近畿大学付属広島高等学校福山校の 1 年生 19 名が夏期研修に参加

はじめに、大田泰正理事長が「これから医療者を目指す皆さんへ」と題した講義で、少子高齢化の進行により近い将来働き手不足が懸念されること、支援が必要な独居高齢者が増加傾向にあること、さらにそうした中で今後の病院のあり方や働き方改革に伴い、求められる資質などについて説明しました。

その後、参加した生徒は事前学習内容を発表し、大田理事長、当院薬剤師の荻原好章薬剤課長、祥和会・福山脳神経医学研究所の大田章子研究員が質問や疑問点に回答しました。

病院紹介・職業紹介の動画を視聴した後、院内薬剤課やリハビリテーションを見学し、スタッフが病院で働く様子を視察しました。

本日参加された生徒の皆さんが、将来希望する医療職になって活躍されることを応援しています。

■発行　脳神経センター大田記念病院 地域医療連携室　TEL：084-975-3900